

都市と自然の共生

緑の進化と変遷

都市に緑をつくり育む

Vertical Garden Cityの実現により生み出される空間や屋上に、その時代と街にふさわしい豊かな緑地を創出し、育んでいます。



年代	特徴
～1970年代	単独ビルの開発
1980年代	再開発による大規模緑化の幕開け
1990年代	緑地の「量」から「量+質」への転換
2000年代	土地の歴史と自然の継承
2010年代	生態系の保全と回復に向けて
2020年代	人の営みにかかわる緑



都市と自然の共生

緑をつなげる

エコロジカルネットワークの拠点を作る

都心に豊かな生態系を育むため、東京都の「環境基本計画」や港区の「緑と水の総合計画」など行政の生物多様性関連計画に沿ったエコロジカルネットワーク^{※1}を構想し、皇居や芝公園など周辺の大規模緑地間を行き交う生きものの中継地や生息地となるよう、緑地の創出・整備を進めています。

麻布台ヒルズ | 2023



高低差のある地形を生かし、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000㎡の中央広場を含む約2.4haの緑地を確保しました。緑の量は開発前の5倍以上になっています。



アーキヒルズ | 1986

1986年、民間初の大規模再開発であるアーキヒルズに大規模な屋上緑地をつくりました。サントリーホール屋上など敷地の20%を超える緑地には40,000本以上の樹木を植え、外周道路に植えた約150本のソメイヨシノは今では桜の名所となっています。



愛宕グリーンヒルズ | 2001

青松寺および愛宕山の豊かな自然と歴史を継承し、芝公園など周辺緑地との緑のネットワークをつくることを目指して愛宕グリーンヒルズは誕生しました。可能な限り斜面緑地を保全し、保全した樹木の種から新たな苗木を育てることで地域の植生を継承しました。動植物への影響を最小限に抑えながら自然を楽しめるよう、斜面に沿って緑道を巡らせています。



六本木ヒルズ | 2003

様々な技術やアイデアが、特色ある緑づくりに生かされています。毛利庭園は、土地の歴史を伝えるために、樹木や江戸時代の遺構を保全しながら整備をしています。けやき坂には街路樹や花壇、ストリートファニチャーを配し、アートと緑が融合した街並みを形成しています。



アーキヒルズ 仙石山森タワー | 2012

生物多様性の保全と回復に向けた緑地を創出。その結果、当緑地はJHEP^{※2}において日本初となる最高ランク（AAA）を取得しています。竣工後も生態系に配慮した維持管理を行い、説明看板の設置やワークショップの開催などを通して、地域の方々々が自然を理解し、身近な生きものと触れ合える機会を提供しています。



虎ノ門ヒルズ | 2014～



皇居から日比谷公園、愛宕山、芝公園へと続く「南北の緑の軸」と、新虎通り沿いに形成される「東西の緑の軸」の交点に虎ノ門ヒルズは位置しています。虎ノ門ヒルズ 森タワーは、立体道路制度の活用により人工地盤上に6,000㎡の緑地を創り出し、生物多様性に配慮した植栽計画によりJHEP^{※2}の最高ランク（AAA）を取得しました。



※1 エコロジカルネットワーク: 生きもの生息地となる緑地を小規模な緑地や街路樹などでつなぎ、生きものが移動できるようにすることで、生きものが暮らしやすい状況をつくる必要があります。このような生息地のネットワークを、エコロジカルネットワークといいます。(港区 生物多様性緑化ガイドより抜粋)
 ※2 JHEP (Japan Habitat Evaluation and Certification Program) 認証
 生物多様性の保全と回復に資する取り組みを定量的に評価、認証する制度。開発・運営: (公財) 日本生態系協会

緑と暮らす



アークヒルズ

緑を育てる

植物は時間の経過とともに、成長します。

森ビルは、植栽のメンテナンスにも力を入れ、大切に育てています。

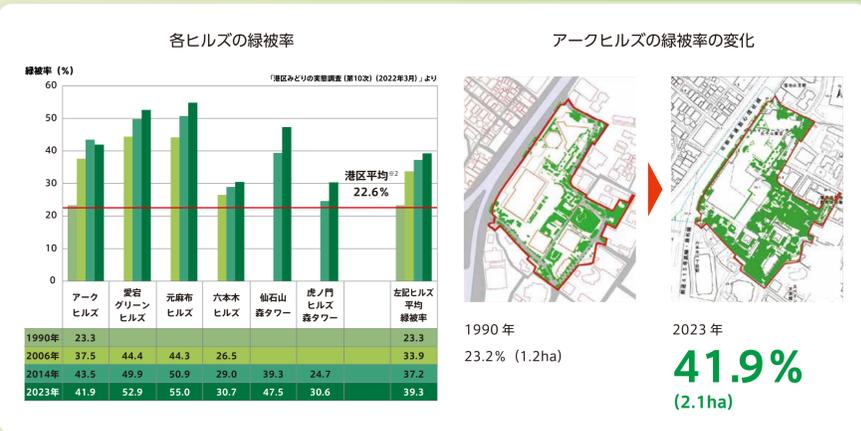
1986年の竣工当時は、平均28cmだったアークヒルズの桜の幹の太さは、2019年には平均145cmを越え、30年以上経った今でも毎年緩やかに成長しています。

アークヒルズや六本木ヒルズは、毎年多くの人々が訪れる都内有数の桜の名所として親しまれています。

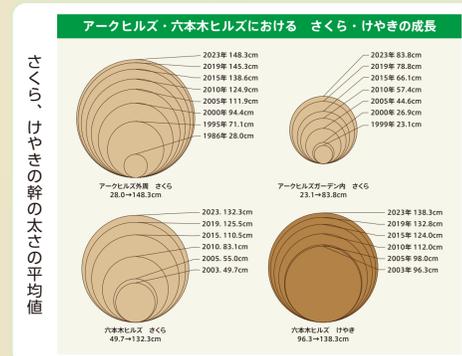
緑被率を高める

緑の総量を把握するために、緑被地の割合を示す「緑被率^{※1}調査」を、2006年より実施しています。アークヒルズや六本木ヒルズなど森ビルが管理運営する施設における緑被率および緑被総面積は年々増加し、森ビルの街づくりが都心の緑化推進に貢献していることが分かります。

※1 緑被率（＝緑地面積／敷地面積×100％）：「東京都緑被率マニュアル」に基づき、航空写真を利用して算出。
 ※2 港区平均22.6％；港区平均緑被率「緑の実態調査（第10次）」2022年3月刊行より。

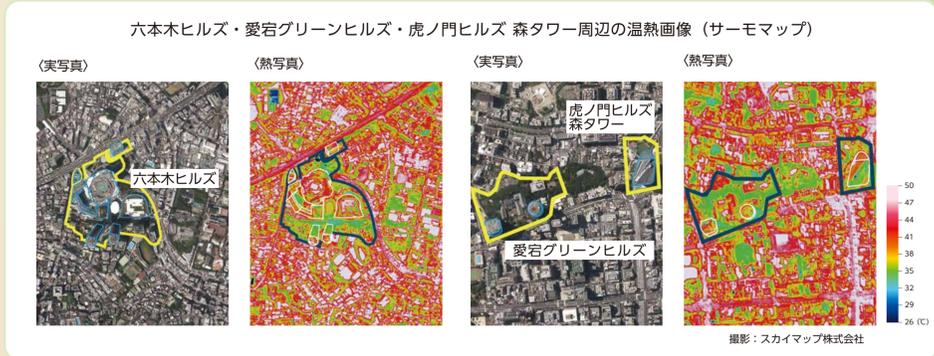


六本木ヒルズ



ヒートアイランド対策

六本木ヒルズや愛宕グリーンヒルズ、虎ノ門ヒルズ森タワー周辺の温熱画像（サーモマップ）から、緑化された空間は周辺道路のアスファルト舗装に比べて、日中で5℃～15℃表面温度が低くなっていることが分かります。都市と自然が共生する緑地の増加は、人々に憩いの場所を提供するだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和にもつながります。



六本木ヒルズ 屋上庭園

仙石山森タワーの植栽計画と観察された生きもの

生物多様性への取り組み



アークヒルズ 仙石山森タワーでは、生物多様性に配慮したエコロジカルネットワークの拠点として、東京都潜在自然植生図に沿った在来種を中心に、生きものの棲み分けに細かく配慮した先進的な緑地づくりを行いました。その結果、多くの鳥やトンボなどの生きものが確認できるようになっています。



こげらの庭

ビオトープを配した「居住者に身近な憩いの場」です。小鳥や昆虫のすみかになるように、あえて枯れ木を設置しました。



住民との協働作業（かいぼり）により、ヤゴやカワナナなどを保護

アークヒルズ 仙石山森タワーが取得した認証



JHEP 認証：AAA
日本初最高ランク
（日本生態系協会）



江戸のみどり登録緑地
優良緑地に指定
（東京都環境局）



まとまりのある緑地

緑地帯に広がり連続性をつくる

緑被ボリュームの高い立体的な緑地

高木から低木・地被までの連続した緑の構造
生きものの棲み分けを手助けする

地域の潜在植生をベースとした植栽

東京都潜在自然植生図に添った植栽計画
地域固有の景観と生態系の回復



エコトーン

陸域と水域をゆるやかにつなぐ
移行帯の整備と生態系の保全

枯れ木、エコスタック （生きものの生活の場）の設置

林床生物を繁殖させる

落葉堆積による土壌生物の充実

地表生物を充実させる

土壌の保全と利用

開発前の土壌 500㎡を予め保存
外構の表土として再利用

